

2016年2月19日

愛知県知事
大村 秀章 様

設楽ダムの建設中止を求める会
代 表 市野 和夫
副代表 伊奈 紘
連絡先(事務局): 奥宮 芳子
440-0069 豊橋市御園町1-3
Tel. & Fax.: 0532-54-7305

要請書

愛知県民の暮らしと安全を守り、地域の環境を保全する日頃の取り組み、ご苦労様です。

さて、国の2016年度の予算案には、設楽ダムの本体工事に直結する「転流工」の経費が盛り込まれた模様です。

大村知事は、中部地整の「設楽ダム事業継続」の再検証結果について、「本体工事についてはあらためて事前協議を求める」との態度を表明されてきました。私どもは、「事前協議」をする時期を迎えたのではないかと考えます。したがって、愛知県知事におかれましては、設楽ダム建設事業の是非について、中部地整との協議を始めていただくように要請します。また、愛知県の平成28年度設楽ダム関連予算のうち本体工事につながる転流工関係については、県費の支出を凍結する等の処置をとっていただくよう申し入れます。

(要請趣旨)

1. ダムに頼る治水は水害対策に無力です

昨年秋の利根川水系鬼怒川の水害で明らかになったように、上流にいくつもの治水ダムがあっても、堤防の強化・手入れが適切になされていなければ、洪水による水害を防ぐことはできません。一般に、ダム建設は完成まで40～50年の年月がかかり、莫大な経費が必要なことから堤防・河道整備が遅れ、その予算が削られ、却って水害を大きくすることになります。設楽ダムについては最上流域のわずかな流域をカバーするのみで、豊川下流域の水害対策としてほとんど意味がありません。

2. 東三河の水源は整備済みです

また、設楽ダムの計画当初の主要な目的であった豊川用水への供給水源としての役割は、2002年に豊川総合用水事業が完成したことにより、まったく不要

となりました。豊川水系ではこの間、観測史上最少雨量年（2005年）や最少雨量の夏（2013年）を経験してきましたが、断水など全く起きませんでした。豊川用水事業で完成した全国でもまれな洪水導入による水源確保のしくみ（調整池群など）が十分に機能していることが証明済みです。すでに水源が確保されている県営水道に、設楽ダムで水源開発するのは二重投資のムダ遣いです。

3．多様な生物の棲む寒狭川（豊川上流）と流域は愛知県民の宝

東三河の山地を流れる豊川流域は、単なる水源ではなく、ダム予定地には、国の天然記念物ネコギギヤ、希少種ナガレホトケドジョウ（東海型）、クマタカ、ヤマセミ、オシドリなど多様な野生生物種の棲息地であり、そのほとりを東海自然歩道が数キロメートルにわたって通っています。まさに愛知県の、また東三河地域の宝というべきところです。豊川上流部は、春はアマゴ釣り、夏はアユ釣りで賑わう愛知県一の清流です。ダムがない川は今では絶滅危惧河川と呼ばれています。この様な素晴らしい川とその流域は、愛知県民・地域住民の貴重な財産です。地域振興に無くてはならない地域の宝です。

4．日本一のアサリ生産を支える豊川

豊川の清流が育む河口にはアサリ稚貝の発生場である六条潟が広がり、日本一を誇る愛知のアサリ漁業を支えています。三河湾の奥まった六条潟に砂と栄養を運んでいるのが豊川です。

豊川上流部は二大支流に分かれています。そのうちの一つ宇連川水系には、豊川用水の水源ダムが宇連、大島ダムに大野頭首工を加えて3つもあり、すでに土砂供給を完全に止めています。もう一つの支流、設楽ダムが計画されている寒狭川（豊川本川）から流下してくる清流と砂礫こそ、三河湾・六条潟の干潟環境を維持する最後の保障なのです。

5．流水の正常な機能の維持はまやかし

「流水の正常な機能の維持」を掲げて3．4．で述べた豊かな自然の恵みを壊すことはまったくばかげたことで、事業を正当化するためのまやかしです。

6．ダム建設場所として不適な最悪の地盤

さらに、設楽ダム予定地は、地質地盤条件が特に悪い場所として知られています。1970年代はじめに電源開発がダム建設のために調査に入りましたが、すぐに撤退しました。その同じ場所に、国は巨大ダムを計画して、問題となりそうな情報を隠しつつ、事業を進めてきました。この様な場所に無理をして巨大ダムを建設すれば、水漏れや深層崩壊をきっかけとする大災害を引き起こしたり、ダム湖に面する田口市街地や小松地区などの地盤の液状化や地すべり誘発の恐れがあるほか、地盤対策として、当初の見積もりを大幅に超える事業費の膨張が予測されます。

以上